



地方創生推進のまちづくり

布田 恵美

問 地方創生を推進し人口維持につなげるための方策として、岩沼に暮らす人も宝であると考え、市職員も来庁者や公共施設利用者への適切な対応のために、さらなるスキルアップや継続的な研修が求められていると考える。市民サービス対応について現状の認識を伺う。

総務部長 市民の皆さまへの職員の対応については、おおむね適切にできていると認識しています。

接遇の研修はどのように

問 市民の皆さまから、担当課に相談や手続きに向いたとき、公共施設利用時の対応で、不快な言動があったとの意見が届いている。職員一人一人の接遇改善で来庁者へのサービス向上は果たせるのではないのか。接遇の研修はどのように実施しているのか。

政策企画課長 新規採用職員研修、市町村職員研修や仙南4市職員研修の接遇研修などでスキル向上に努めています。

問 来庁者全ての人に対して均一なサービスを提供する場であってほしいと願うが、その点についての考えはどうか。

総務部長 市役所のイメージとして接遇はとても大切なことだと認識しています。電話対応で自分の名前を名乗る、専門的な用語を使わず、わかりやすい言葉で説明するなど、日々職場の中で指導しています。

問 村井嘉浩宮城県知事も呼びかけの一人となっている「みやぎイクボス同盟」に市役所がモデル事業所として加盟し、日本で一番働きたくなるまち・岩沼を目指してはどうか。

市長 岩沼だけではなく、広域的に宮城県がもう少し推進して目標を見せていただけるとよいと思います。ワークライフバランスの考え方で仕事に取り組める環境づくりに取り組めます。



高齢者支援

長田 忠広

問 第7期岩沼市高齢者福祉計画策定に当たり「ボランティアの育成」をどのように検討したのか伺う。

健康福祉部長 ボランティアの育成については、地域包括ケアシステムの深化と充実を図っていく上で、岩沼市社会福祉協議会との連携の強化、育成内容の充実を進めていくことを検討しています。

問 (以前から提言している)「介護支援ボランティア制度」をどのように検討したのか伺う。

介護福祉課長 第7期計画策定に当たり、協議体等においては介護支援ボランティア制度の議論はあまり高まっておりません。現時点では、制度の導入は難しいと考えます。

困りごと事業導入しては

問 (以前から提言している)「高齢者の困りごと支援事業」をどのように検討したのか伺う。

介護福祉課長 高齢者の日常生活の困りごとについては、協議体などで検討しており、総合事業にお

ける生活援助サービスの充実、岩沼市社会福祉協議会登録ボランティアのさらなる活用、既存のサービスの組み合わせなどによる高齢者を支える仕組みについて検討しています。

問 以前から地域で高齢者を支える仕組みとして「小地域福祉」を訴えてきた。平成30年度において、地域で支える仕組みづくりが検討されているが、どのように進めていくのか伺う。

総務部長 この取組は、地域のコミュニティの活性化や地域力の向上という角度から、地域共生社会の実現に向けた取組として考えていきたいと思えます。

実際に展開する内容等は、これまで議論してきた小地域福祉活動の中にも含まれている活動ですが、平成30年度は、まずこの取組について基本的な考え方を整理して、具体的な運営方法を考えていきたいと思えます。